

第 8 回 知識共創フォーラム 発表募集のご案内

<http://www.jaist.ac.jp/fokcs/>

知識は、人間の生命・安全保障や豊かで幸せな生活、企業等の様々な組織やコミュニティ・都市・国家の経営、そして地域レベルから地球規模までの多様なスケールでの持続可能な社会の構築に至るまで、あらゆる社会的活動の中核を担う要素です。旺盛な知的好奇心をもって、個人や組織における知識の創造・共有・活用に潜む知的神秘を解明し、より高度に成熟した知識社会を実現していくための指針を提案していくことは、知識科学の大きな学術的使命です。この実現のためには、

1. 幅広い視野に基づいた社会や生活における知識の深い洞察と問題提起
2. 知識の創造・共有・活用に関わる前例にとらわれない独創的な仮説やモデルの構築
3. 知識を適切に抽出・評価できる方法論による仮説検証とモデルの洗練

を継続的に行っていくことが必要であり、同時に、研究者や実務家との分野を超えた密度の濃い議論が不可欠です。

このような意識のもと、研究報告者と参加者が知識を共に創造していくことを通じ、広く知識科学研究の基盤を形成していくことを目的として、第 8 回知識共創フォーラムを開催します。

会期：平成 30 年 3 月 6 日（火）、7 日（水）

会場：石川県政記念 しいのき迎賓館、セミナールーム B（石川県金沢市広坂 2 丁目 1-1）

1. 主な構成

第 8 回知識共創フォーラムは、以下の 4 種類のセッションによって構成されます。

I. 招待講演セッション：

招待講演タイトル：「地域サービスシステムにおける知識共創と価値創造」

招待講演者：小坂 満隆 教授 【北陸先端科学技術大学院大学知識科学系・教授】

II. テーマセッション：「価値を生み出すシステムとしての知識創造プロセスへのアプローチ」

（20 分発表，20 分合同質疑応答）

地域包括ケアやスマートシティ、コミュニティを活用した各種社会イノベーションなど、価値創造活動をシステムの観点から実現したり解明したりすることの重要性が改めて指摘・実践されています。そこには創発性発揮と不確実性削減への期待があるものの、本質的には両者がバランスを保っていなければならないでしょう。すなわち、創発性と不確実性が持つ「動き」を生みだし創造をもたらし得る潜在力を活用して、価値創造を達成する力を得るという、本質的に動的

な知識創造プロセス概念が重要であると考えます。この知識創造プロセスを理解し活用するには、部分の和を越えた全体性として価値を共創する、不確実性・ゆらぎが創発に結びつく、静的・斉一的な安定ではなく動きと多様性の中に安定を生み出すといった、システム論・システム科学で考えられ磨かれてきた概念が重要となるはずです。

今回の知識共創フォーラムでは、この価値を生み出すこと（活動、実践、システム、モデル、理論等）に対する研究をテーマとします。招待講演では、システム科学の視点から、地域包括ケアにおけるサービスサイエンスと知識科学の研究を精力的に進めている北陸先端科学技術大学院大学・知識マネジメント領域の小坂満隆教授をお招きして、このテーマに迫りたいと考えています。そしてテーマセッションでは、システム科学を含むより多様な観点・方法論・理論、そして、種々の対象について、価値創造を検討している発表を募集します。

価値創造を対象とした研究を展開することで、価値の創造を深く理解し、さらなる価値創造へと繋げることができるはずです。すなわち、実践とともに、その実践を対象に観察・計測実験・分析・考察を進める。知識科学では、知識の創造・共有・活用という観点から、実践者と研究者との知識共創活動の研究に意識的に取り組んでいます。価値創造の実践、価値創造実践についての知識共創、価値創造の理論化、学問知を活用したさらなる価値創造の4つを、相互に関連させながら進めていくのが知識科学の運動だと考えています。この運動により、実践がますます拡がり、学問知を深化させて行くはずです。また、この運動そのものを対象としたメタな知識科学も構想できるでしょう。これら知識科学のシステム論的パースペクティブが、価値創造の理解と実践にどう関わり貢献し発展させるのかを検討し、また、その検討がシステム論と知識科学をどう発展させるのかを議論することを望んでいます。

本フォーラムでは、この知識科学の運動を進めたいと考えているものの、登壇者がこれまでに知識科学に意識的・自覚的にかかわっていることを求めるものではありません。問題意識や対象、視点を共有したり刺激や魅力を感じたりする方々に、自らの研究活動を基に、価値を創造する活動の解明や問題解決の方向性を提案し、あるいはまた、モデルのアイデアや理論化の試みを示し、参加者と共に議論を深めることを期待しています。多様な観点からテーマへの見解を議論・共有し、この場において知識共創を目指すことで、今後の研究や共同での取り組みの糸口を見出すことを目的とします。このセッションが本フォーラムの中核となります。

III. 一般セッション（20分発表，20分質疑応答）

本セッションでは、各自の知識科学研究の成果を報告し研究を進めることを目的とします。登壇者は知識科学に関連すると考えられるテーマについて、自らの研究活動を魅力的に説明することが期待されます。また、参加者は発表に対し、補うべきロジックや新しい展開の方向性についてアイデアを提供することが期待されています。

IV. シーズ（種）セッション（15分発表，20分質疑応答）

知識の創造・活用を促進させると考えられる、自らの持つ技術やコンセプトの種を成長させることが目的のセッションです。登壇者は自らのアイデアを明瞭かつ魅力的に解説することが、また、参加者は当該アイデアの持つ理論的・実用的意義について考えコメントする

ことが期待されます。

V. インタラクティブセッション（1 時間 30 分発表および質疑応答）

発表者と参加者たちの間で長時間・双方向のインタラクションが望まれる知識科学に関する研究成果（研究途上成果も含む）についてポスター形式で発表し、参加者との知識共創によって研究をさらに発展させること目的とします。

議論のポイントを明確にするため、発表者には全参加者に対してショートプレゼンを行っていただきます。参加者は発表者が提示した論点を中心に、発表内容について建設的な議論を行ってください。

2. 対象課題

知識の創造・共有・活用に関わるあらゆる研究を対象とします。特に、以下の課題に関係のある話題を歓迎しますが、これに限るものではありません。

1. 幅広い視野に基づいた社会や生活における知識の深い洞察と問題提起
2. 知識の創造・共有・活用に関わる前例にとられない独創的な仮説やモデルの構築
3. 知識を適切に抽出・評価できる方法論による仮説検証とモデルの洗練

（参考キーワード）

知識科学	ナレッジ・マネジメント	研究開発マネジメント	イノベーション・マネジメント
サービスサイエンス	医療サービス	知識表現	知識発見
メディア・インタラクション	発想支援システム	スキルサイエンス	デザイン思考
感性情報処理	知識獲得	身体化された認知	認知モデル
制度設計	知識経済	意思決定分析	認知科学
公共政策	地域経営	地域イノベーション	知識人類学

3. 本フォーラムでの発表の取り扱い

- まず、発表のアブストラクト（日本語の場合は 1000 字程度、英語の場合は 400 語程度、かつ A4 で 2 ページ以内）を、下記の「5. 投稿方法」に従って投稿していただきます。
- アブストラクトの内容を複数のレビュアーが査読した上で採否を決定します。
- [II]～[IV]のセッションに採録された方にはフォーラム開催の前に発表に関する研究会報告資料を提出していただきます（ページ数は 4～10 ページの範囲内）。
- なお、インタラクティブセッションに採録された方の研究会報告資料の提出は任意とします。
- 提出された研究会報告資料は、会期中に本フォーラム参加者のみで共有される資料となります。研究会報告資料は同意された方のみ後日ウェブサイトを通じて公表されます。研究会報告資料の公開に同意されない方も発表のアブストラクトは後日ウェブサ

イトを通じて公表されます。

- 本フォーラムでは若手研究者（学生も含む）の研究発表を歓迎しております。研究途上のものであってもシーズセッションやインタラクティブセッションにおける発表と議論を通じて、研究のさらなる発展が行われることを期待しております。

4. 主なスケジュール

- アブストラクト投稿〆切：~~平成30年1月19日(金)~~ **1月22日(月) 12:00に延長しました。**
- 採録通知予定：平成30年1月末
- 研究会報告資料提出〆切：平成30年2月23日(金)
- 第8回知識共創フォーラム開催：平成30年3月6日(火)，7日(水)

5. 投稿方法

知識共創フォーラムのウェブサイト<<http://www.jaist.ac.jp/fokcs/>>にアクセスし、登録の上、アブストラクトのPDFファイルをアップロードして下さい。投稿に際して、テーマセッション、一般セッション、シーズセッション、インタラクティブセッションのどれに投稿するかを指定していただきます。ただし、選考結果によっては、ご希望のセッションとは異なるセッションに割り当てられることがあります。

アブストラクト原稿のフォーマットは、ウェブサイトにテンプレートファイル(本文1000文字程度、英文の場合は400語程度、かつA4で2ページ以内)を用意しましたので、そちらをお使い下さい。図表を挿入していただいても構いません。

6. 賞

[II]～[IV]のセッションにて発表された方の中から優秀であると認められた発表に対して賞を授与します。

また、本フォーラムでの議論(質疑応答)をもとに後日改訂された研究会報告資料の中から最優秀論文賞と共創賞が授与されます(共創賞のみ[V]のインタラクティブセッションの研究会報告資料も選考の対象となります)。改訂後の賞の対象となるのは本フォーラムのウェブサイトにて研究会報告資料の公開に同意していただいた発表に限ります。

7. 問合せ先

知識共創フォーラム事務局

Email: <office-fokcs@onto.jaist.ac.jp>